

福祉20年の実績 介護のケアマネジャーが区政へつなぐ

しいなひろみ

親子4代地元です。



楽しいな通信



本会議 (録画)



出前しいな ~男性の介護 その2~



認知症の妻を在宅で看ているケース

「出前しいな」とは・・・  
区民の皆様の代表者として区民の意見を政治に反映させる責務があり、日頃から多くのご相談を直接傾聴している活動です。

レビー小体型認知症の妻を介護している70代の夫  
認知症は「もの忘れ」だけだと思っていました。5歳下の妻がスポーツジムへ自転車で通うのを怖がるようになってきたり「帰り道がわからなくなった」と聞いてもピンと来なかったが妻の姉から指摘を受け病院を受診しました。同じころ悪性腫瘍を患い入院となり看護師からのアドバイスで介護保険の認定を受けました。結果は要支援、認知症と言われても自分の事にプラスの世話ぐらいなら「一生面倒見よう」という気持ちでした。当初は散歩や緑が癒されると知れば認知症に良いという事に取り組みました。病気の進行は早く、外へも出られなくなり妻は日常生活への意欲の低下も重なり食事の準備も後片付けも出来なくなりました。着替え、トイレと全てに介助が必要になりました。穏やかな状態の時もあれば、いないはずのものが見え、暴言も増え、昼夜問わずに錯乱状態も出現してきました。レビー小体型認知症の事や食事が上手く食べられない時にどんなスプーンを使えば良いのか、床で動けなくなった妻をどういう風にベッドへ移動させるのか誰に聞いたら良いのか、どこへ相談に行くのか「介護のやり方」すら分からずにいました。「食べる事」と「出すこと」が一人でできないと日々の暮らしの中で介護の負担も増大しました。思い返せば、転勤族だった私の赴任先にはいつもついてきてくれて専業主婦として家を守りながらも書道などの自分の趣味を持ち快活だった昔の妻と、病気がゆえに私を家族との認識もできなくなり暴言や机を強く叩き行動も激しくなった時の妻をどう受け入れていいのかも葛藤していました。

妻がデイサービスを利用している間は公共施設で開催されているサークルなどにも積極的に参加しました。男の料理教室や、陶芸などそこで出会った同じような境遇の方との介護の情報交換することが支えにもなりました。施設への入所も検討しましたが見学した複数の施設からは入所も断られてしまいました。先の見通しも立たない中、私の体も悲鳴を上げようやく認知症専門病院への入院が出来るようになりました。介護保険サービスは利用はしていましたが誰が何をしてくれるのもよくわからない手探りの状態が続きました。今は専門的な医療に妻を委ね自分の体調の回復に努めようと思います。

大切にしていること

妻が気持ちよく日々を送る事。自分の健康にも気をつける事。

レビー小体型認知症とは？

日によって調子の波が大きく、一日のうちでも変動し、特に夕方に悪化する傾向があります。自律神経症状も加わり、食後に急に無動状態になったり、夕方に幻視を頻繁にみることもよくあります。アルツハイマー型認知症の次に多いのがレビー小体型認知症といわれており、女性よりも男性に発症が多く近年患者数も増加しています。

令和4年度所属の常任委員会は「区民環境委員会」に決まりました！

主な調査事項 地域自治の振興、文化振興、スポーツ振興、国際交流、戸籍及び住民基本台帳産業振興、消費生活及び観光振興、環境保全及び公害対策、資源化再利用、清掃事業  
※ 特別調査委員会は去年に引き続き、災害対策調査に所属となりました。



第37回 おいしいな「福まね嬉 だれでも食堂！」 6/11(土)



福まね嬉だれでも食堂開催です！コロナの影響でテイクアウト中心です。お子さまたちや親御さん、お一人暮らしの高齢者の方々へ、計124食・全37回の累計で2980食を提供させて頂く事が出来ました。今回もボランティアさん8名が準備から片付けまで手際よく行ってくださいました。地域の皆様を始め、沢山の方々のおかげで無事に開催することができました。本当にいつもありがとうございます！！



※開催日についてはお気軽にお問い合わせください。→ 080-5187-7224 まで